

第1回安中市総合計画審議会議事録

(以下、敬称略)

- 【日 時】 令和5年5月29日(月)午後1時30分～2時50分
- 【場 所】 市役所本庁第201会議室
- 【出席委員】 16名(小竹委員、萩原委員、伏田委員、矢野委員、高橋委員、神宮委員、武井委員、長野委員、大塚委員、本多委員、南沢委員、青木委員、緑川委員、井上委員、小坂委員、竹下委員)※本多委員はオンライン参加
- 【欠席委員】 2名(佐藤委員、坂田委員)
- 【事務局】 7名(町田企画政策部長、大溝政策・デジタル推進課長、佐藤課長補佐、齋藤主任、宮寺主事及びジャパンインターナショナル総合研究所2名)
- 【配付資料】
- 資料1 審議会次第
 - 資料2 審議会委員名簿
 - 資料3-1 第1回審議会資料
 - 資料3-2 第3次安中市総合計画策定スケジュール
 - 資料4 市民アンケート調査結果のご報告(概要版)
 - 資料5 第3次総合計画の施策体系案について

【詳 細】

- 1 開会 《企画政策部長》
- 2 委員委嘱及び委員紹介
- 3 市長挨拶
- 4 会長、副会長の選出
(会長) 小竹委員
(副会長) 緑川委員
- 5 諮問

(市長退席)
(委員及び事務局自己紹介)
(配布資料確認)
- 6 協議事項
(小竹会長が出席者16名で会議の成立を報告)

(小竹会長が議事録署名人として荻原委員と伏田委員を指名)

(1) 第3次安中市総合計画の策定について

(2) 安中市まち・ひと・しごと創生総合戦略との統合について〔資料3-1、3-2〕

<説明>事務局

- 資料の3-1を使用。P.1の計画の策定について、この文章は、本審議会のために作成したものである。第3次総合計画の計画書に掲載することを前提としていて、表現が、今の時点で、「第3次計画を策定しました」のように過去形になっているものもあるが、ご了承願いたい。(1)計画の位置づけ、(2)計画の役割を読み上げる。)
- 総合計画は、市の今後進めていく施策を総合的かつ体系的にまとめたもので、例えば、子育てや福祉、都市計画、環境などといった市で個別に定めている計画の基本となるもので、まちづくりの指針となる。
- 平成23年の地方自治法の一部改正により、総合計画は、自治体ごとに策定義務はなくなり、策定は、市町村の独自の判断に委ねられることとなったが、安中市では、総合計画の基本構想の策定について議会の議決が必要な事項として、大変重要な位置づけとしている。
- P.2で、計画の構成と期間について説明する。安中市では、総合計画を条例に基づき、基本構想、基本計画、実施計画の3層で構成している。ピラミッド型の図にあるように、基本構想の部分で、まちの将来像、達成すべきビジョン、基本計画ではその将来像を達成するための具体的な施策の方向性を示している。さらに、その下に実施計画がある。実施計画は、総合計画書とは別に毎年作成しており、次年度以降に予定される事業を取りまとめている。
- 総合計画の期間をご覧いただきたい。今回の第3次計画では、基本構想を8年間、基本計画を前後期に分けた4年間ずつで計画する。実施計画の内容は、本審議会で審議しない。
- 協議事項(2)「総合計画」と「デジタル田園都市構想総合戦略」の統合について、同資料のP.3をご覧いただきたい。
- 地方の人口減少の歯止めと東京圏への人口集中を食い止め、地方の活性化を図るため、国において、策定された計画を基に、各自治体でも〇〇市まち・ひと・しごと創生総合戦略という計画をそれぞれで策定していて、安中市でも、現在、第2期安中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理を行っている。
- ところが、昨年12月、国において、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を「デジタル田園都市国家構想総合戦略」へと改訂し、各自治体においても、同様の改訂に努めるようにとの通知が出された。デジタル田園都市国家構想総合戦略とは、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想」の実現に向け、デジタル技術の活用によって、地域の個性を生かしながら社会課題解決や魅力向上の取組を加速化・深化するといった目的を持っている。
- このような国の流れを受け、本市においても「安中市デジタル田園都市構想総合戦略」の策定を目指すこととし、この計画を今回の総合計画と一体で作成することを目指す。
- 現在は、「総合計画」と「総合戦略」を別々に推進し管理している仕組みになっているが、これらを一体的に策定することにより、施策の推進及び評価・改善を連動させることが可能となる。
- 資料の下の方の図が第3次総合計画とデジタル総合戦略の統合イメージである。後ほど体系案で説明す

るが、総合計画は 7 つの柱を検討しており、それらを貫くイメージで、デジタル総合戦略を置く。また、総合戦略を策定する過程で、人口ビジョンを策定し、将来人口の推計を行っている。これについても、現在の人口をもとに、再推計のうえ改訂し、総合計画の中に含めるべく検討する。

- 資料の 3-2 をご覧いただきたい。第 3 次総合計画の策定スケジュールである。総合戦略の見直し (3) のほか、(4) の市民参画の実施は、市民ワークショップや移住者へのアンケート、若者の意見を取り入れるべく、高校生ワークショップなどを実施する予定である。(8) は、総合計画原稿の検討及び作成となっているが、市としては、見やすい (特にスマートフォンなど小さな画面でも読みやすい)、分かりやすい、思わず手に取って読みたくなるような、そんな計画とするため、デザイン等にも力を入れる。中身で良い計画ができたとしても、市民が知らない、読んだことがない、ましてや、職員もきちんと理解していないという状況では、意味がなく、しっかりと読んでいただけるような計画書にしたい。(6) のところで、当審議会は、現時点では、年間 5 回を予定している。

<協議>

会長	資料 3-2 スケジュールの (8) で検討及び作成期間が飛んで着色されているのはなぜか。
事務局	デザイン等に力を入れるべく、早めに検討していくため期間が飛んでいる。
会長	総合計画は最上位計画であり、資料 3-1 の P.2 のピラミッドでは、上から抽象度が高く、下に行くほど具体的になっている。また、国ではこれまでの取組に加えて、デジタルの活用が必須であると考えている。これ総合計画と併せて考えていきたいというのが安中市の新しい総合計画ということである。 何か、質問や確認はあるか。
委員	第 2 次計画から 6 年経過しているが、計画に沿ってできたこと、できなかったことは、どうなっているか。
事務局	少子高齢化の進行、人口減少は第 2 次計画を策定したところから同様に進んでいる。これに加え、コロナを経験し、デジタル化の視点が新たに必要となっている。子育て支援、企業誘致、交通網の整備など、継続的に住みやすいまちづくりを進めることが重要となっている。
委員	計画期間中に国の考え方が変わってしまい、策定時と条件が相違したりしているが、総合計画は最上位計画であるので、審議会での意見等が、計画期間中に反映され、結果が分かるように取り組んでいただきたい。
会長	時代の変化が激しいので事務局や、支援事業者から情報を出してもらい、この場で検討していく必要がある。
委員	総合計画に入っていない事象も出てくるので、行政側も変わって対応する必要がある。
会長	委員の目線で意見を積極的に発言し、その内容を市側でまとめて、計画策定を進めていただきたい。

(3) 市民アンケート調査の結果報告について [資料 4]

<説明>事務局

- 資料 4 のアンケート調査結果のご報告をご覧いただきたい。初めに、タイトルのところで、「第 2 次

安中市総合計画（後期計画）策定のための」とある。このアンケートは令和４年２月に実施した。当時は、第２次総合計画の前期計画の終了に合わせて、後期計画を策定する予定であった。このアンケートも、後期計画を策定するための資料とする目的で実施したため、このようなタイトルとなっているが、時代の流れを考慮し、第２次後期計画ではなく、第３次総合計画を策定することとなった。しかし、アンケート調査は、安中市の住みやすさ、住みにくさ、施策の満足や課題を聞く内容となっているので、今回の第３次総合計画策定においても十分活用できるものと考え、また、調査実施から、期間も空いていないので、この調査結果を踏まえて、第３次総合計画を策定することとした。

- このアンケートは、無作為で抽出した１６歳以上の市民４,０００人を対象に郵送で実施した。そのうち１,８８４名の方が回答し、回収率は４７.１％となった。
- Ｐ.１は、そのほかに、回答者の基本属性を記載している。回答者の年代としては、６０歳代、７０歳以上の２つで、５０％を超えている。
- Ｐ.２は、安中市の住みやすさで、住みやすいと回答した割合は、前回、平成２８年の調査結果とほぼ同じ割合で、住みやすい、どちらかと言えば住みやすいを合計すると５５.６％である。住みやすい理由も、目立った大きな変化はなく、自然災害の心配が少ない点が挙げられている。
- Ｐ.３は、住みにくい理由、「交通の便が悪い」「買い物が不便」「医療・福祉が充実していない」などが前回同様高くなっている。下の図では、年代別に分けて集計を行っており、４０歳代より前と後では、多少考え方に違いがある。
- Ｐ.４は、「まちづくり施策の重要度・満足度」の結果、右下のブロックが、重要度が高いのに、満足度が低い、こちらを「早期見直しブロック」とし、「公共交通」、「医療体制」などが挙げられている。一方重要度、満足度両方が高い「安定・拡充ブロック」には、「水道水」や「消防・救急」などが挙げられる。
- Ｐ.５・６ページは、先ほどの市の課題である、「医療体制」と「公共交通」を特出して質問している。「医療体制」は、「公立碓氷病院における医師、看護師の人材確保」や「休日・夜間の医療体制の充実」などが高い割合となっている。
- Ｐ.６は、「公共交通」を利用しやすいものにするための項目を設けており、１０代、２０代、３０代は「バスや電車の運行時間帯の拡大や運航便の増加」が最も多く、５０代以降の世代は、「病院や福祉施設、商業施設などによる送迎サービスの拡充・導入」が最も多くなっている。各年代層により、「公共交通」における課題が異なる。
- Ｐ.７は、人口減少や少子化、高齢化の中でまちづくりに大切なことをご質問しており、ここにおいても、医療、公共交通が重要であるとの結果となっている。続く移住・定住する人を増やすために大切なことは、子育て、教育環境の充実、医療体制の充実が高い数字を示している。
- Ｐ.８は、５年後、安中市はどのようなまちであってほしいかを質問しており、公共交通などの都市基盤整備、福祉、子育て、災害・防犯に強いまち、などが高い数字となっている。

<協議>

会長	年代で７０歳以上となっているので割合が多くなっていること、移住・定住でライフサイクルによって意見の違いが出ていることなどに注意して見て頂きたい。
----	--

	何か、質問や確認はあるか。
委員	60 歳以上が多いので補正をかける必要があるのではないか。
会長	安中市の人口構成とアンケートの年代分布を検証しながら考察する必要がある。

(4) 第 3 次安中市総合計画の施策体系(案)について [資料 5]

<説明>事務局

- 資料 5 の 1 枚目をご覧ください。左側が現計画の体系、右側が体系案となっている。現計画では、政策大綱が 6 分野となっている。体系案では、現計画をベースに再起動プロジェクトの体系を加味して作成している。体系案では、「少子化対策・子育て支援」から「行財政・自治体DX」までの 7 分野としている。基本施策における現計画からの変更では、1 少子化対策・子育て支援で「結婚・出産環境の充実」と「子育て支援環境の整備」に分け、「母子保健医療体制の充実」と「移住・定住の促進」を追加し、7 行財政・自治体DXの「行政DXの推進」を追加している。
- 政策大綱の基本目標フレーズは、各種ワークショップなどの意見を踏まえ作成する。
- 資料 5 の 2 枚目をご覧ください。2 枚目は重点目標の体系案で、重点目標は基本計画から横断的に取り組むべき重要な施策等を定めたものである。左側に再起動プロジェクトの体系、真ん中に第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略の体系案、右側に重点目標案となっている。
- 再起動プロジェクトも同様に横断的に取り組むものであり、まち・ひと・しごと創生総合戦略と合わせ重点目標としている。重点目標案では、国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の展開方針案と合せた体系案としている。右側に「再起動プロジェクト」及び「第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の該当施策を記載している。
- 基本施策と合わせご意見をいただきたい。

<協議>

会長	基本計画では、現行の体系と新しい体系を比較していただき、「少子化対策・子育て支援」を緊急の課題であると感じる。子育て環境の充実については、新体系の方が、項目数が増えているのが分かる。重点目標では、市長の公約でもある「再起動プロジェクト」を含め構成されている。両体系の施策は必ずしも一致しない。体系の構成や施策などの意見を今後出して頂くとよい。 何か、質問や確認はあるか。
委員	特になし。
会長	質問、意見があれば事務局に問い合わせいただきたい。

7 その他

- 本会議の議事録は、要約を議事録署名人が署名後、配布する。
- 次回会議は、7 月中旬から下旬を予定している。オンライン参加も活用する。

➤ 紙の資料を不要とする委員を確認する。

8 閉会《企画政策部長》

以上

議事録署名人

萩原豊彦

議事録署名人

伏田 再子